

# 2018年12月期 第2四半期決算説明会資料

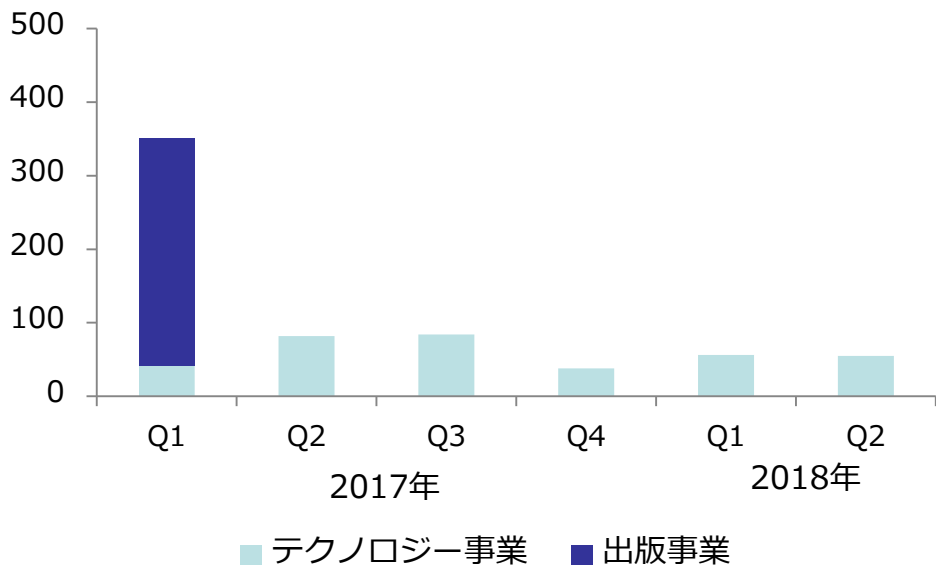
---

株式会社アプリックス  
2018年8月29日

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益
17年12月期 Q2累計実績(A)	434	▲201	▲218	▲707
18年12月期 Q2累計実績(B)	111	▲248	▲258	▲261
増減額 (B-A)	▲323	▲47	▲40	+446
増減率 (%)	▲74.4	-	-	-

- ✓ 平成28年2月に元従業員より提起された地位確認請求等の訴訟に関連して、第2四半期連結決算において特別損失6百万を計上  
本訴訟については平成30年7月に第1審判決が確定したことに伴い終了

単位：百万円



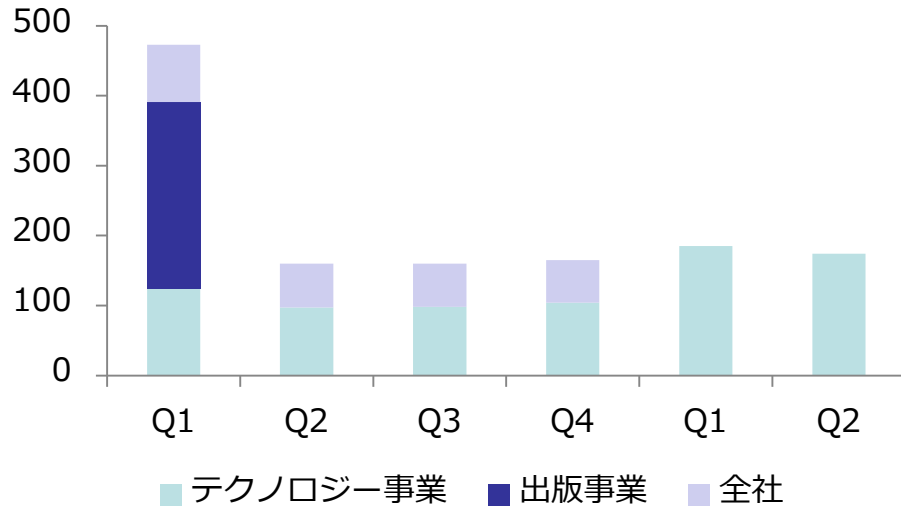
(単位：百万円)	2017年 Q2	2018年 Q2	増減率
テクノロジー事業	82	55	▲32.9%
出版事業	—	—	—
(売上高合計)	82	55	▲32.9%

- 出版事業については、2017年3月31日に、出版事業に属する全ての子会社の全株式を譲渡。
- 第1四半期連結会計期間より「テクノロジー事業」の単一セグメントに変更。

# 18年12月期第2四半期 営業費用推移



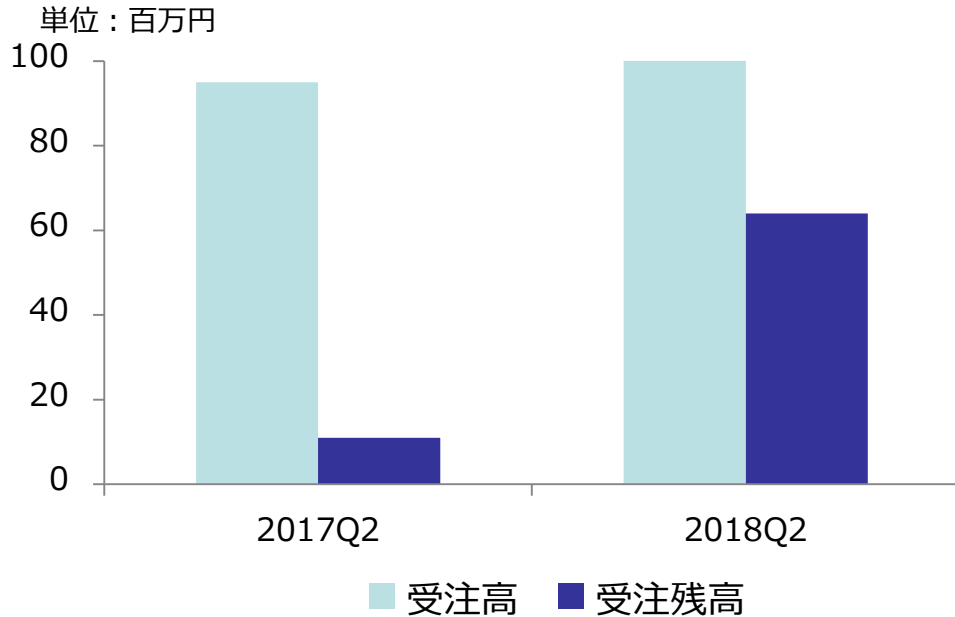
単位：百万円



(単位：百万円)	2017年 Q2	2018年 Q2	増減率
営業費用	160	174	+8.75

➤ 第1四半期連結会計期間より「テクノロジー事業」の単一セグメントに変更。

# 18年12月期第2四半期 受注高・受注残高



(単位：百万円)	2017年 Q2	2018年 Q2	増減率
受注高	95	128	+34.7%
受注残高	11	64	+481.8%

- 受注実績の主な増加要因は、当社ソリューションを導入した顧客からの追加開発案件の増加によるもの。
- 受注残高についても前第2四半期と比較して大幅に増加。

- ▶ 水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージ「HARPS（ハーパス）」を2018年4月1日に発売

### ■ 「HARPS」の契約状況

地域	目標契約数	契約締結件数	進捗率
米国・カナダ	12件	2件	16.7%
欧州・中東・アフリカ	10件	6件	60.0%
日本・アジア・その他	3件	2件	66.7%
TOTAL	25件	10件	40.0%

- ✓ 目標契約件数25件に対して、現在までに10件の契約を獲得

経営合理化策の一環として業務執行取締役の役員報酬の減額、一般従業員の給与減額及び平成30年度賞与の不支給を実施することについて、平成30年7月に取締役会で決議

### ➤ 役員報酬の減額

- ✓ 業務執行取締役2名の役員報酬の減額
    - ①代表取締役 兼 取締役社長：報酬月額約20%減額
    - ②常務取締役：報酬月額約20%減額
- ※対象期間：平成30年8月分から平成31年3月分まで

### ➤ 一般従業員給与の減額

- ✓ 一般従業員（正社員）の給与を約10%減額
- ※対象期間：平成30年8月分から平成30年12月分まで

### ➤ 一般従業員賞与の不支給

- ✓ 一般従業員（正社員）の平成30年度夏季及び冬季の賞与不支給

## ➤ 第M-2回新株予約権の行使状況（平成30年7月末時点）

当初付与個数	45,000個
累計行使個数	21,516個（行使率：47.8%）
未行使個数	23,484個
平均行使価額	275.15円
当初予定調達金額	1,818,000,000円
平成30年7月末時点の調達金額	574,958,160円（進捗率：31.6%）

## ➤ 第S-3回新株予約権の消滅

平成29年11月27日に株式会社光通信を割当先として発行した第S-3回新株予約権については、ロックアウト条項に設定された株価を下回ったことにより平成30年5月17日に消滅



# 今後の成長戦略について



# CONNECTING THE UNCONNECTED

ミッション：「みんなをつなげる」ことに貢献する企業（東証マザーズ：3727）  
「みんなをつなげる」ことによる新たな付加価値の創造と新しいビジネスへのチャレンジ

## 1990年代（中期） メディアのインフラ CDオーサリングツール

WinCDR 6.0  
Premium Package

# CDWriter



大容量のデータをCD-ROMに書き込むことができる画期的な技術として注目される

## 1990年代（後期） ネットワークのインフラ 組込みシステム向けWebブラウザ



インターネット対応カーナビゲーションシステム、家庭用ゲームのインターネット対応等

## 2000年代 制御のインフラ 組込み向けシステム向けJavaプラットフォーム



当社Javaプラットフォーム「JBlend」は多数の大手携帯電話メーカーに採用され、株式上場の直接の原動力に

## 2010年代 IoT・M2Mのインフラ IoTトータルソリューション



ハードウェアの設計開発・製造からアプリケーション・クラウドサービス、運用・保守までワンストップなIoTトータルソリューションの提供

これまでの実績をもとにIoT/CPS・AI・Robot・Big Data時代の新しいインフラの構築・開発・運用へ

## 1. 組込み技術力：30年以上におよぶ組込み実績・技術 IoTは“組込み”

アプリックスは、カーナビ、携帯、家電などの分野における30年以上の取り組みを通じて蓄積した、ハードウェアの知識を活かしたアプリケーション、プラットフォーム開発の実績・ノウハウを保持しています

### <ハードウェア>



中国等で安価に調達・生産

### <ファームウェア>



ハードを制御するソフト  
当社独自開発

### <アプリケーション>



UI・UX設計から  
アプリフレームワークまで  
設計

### <クラウド>



大規模IoTサービスの運営

## 2. 米国での先端的な実績：

アプリックスでは10年近く米国での営業・マーケティング活動を続けており、スマホを活用した浄水器フィルター交換の仕組み（Aquasana, Inc.）、Amazon AlexaやGoogleアシスタントを使った空気清浄機（Guardian Technologies LLC）など米国のクライアントとの先端的な実績があります

## 3. 大規模プラットフォーム運用実績（ネスレ日本株式会社様）：

累計出荷台数30万台以上、アクティブユーザ10万を超えるネスレ社の「バリスタ i[アイ]」のIoTプラットフォームをアプリックスが一括して開発・運用しています

### IoT搭載コーヒーメーカー

ネスカフェゴールドブレンド  
バリスタ i[アイ]



### 当社をめぐる現状と課題

- ・ 18年12月期Q2までの売上高：1.1億円  
⇒黒字化を達成するには、さらなる売上高の拡大が必要
- ・ 売上高の拡大にあたっての必要な要素
  1. 3本の矢による成長加速（次ページ以降参照）
  2. 事業提携及びM&A（進行中）

# アプリックス黒字化に向けた3本の矢



第1の矢: 既存ビジネスでの売上拡大



第2の矢: 新規サービスでの売上拡大



第3の矢: 新しい分野への仕込み



## <第1の矢：既存のビジネスでの売上拡大>

### 1. 国内

#### ビーコン販売体制の強化

⇒国内営業を強化して、販売体制を拡充

ビーコンからシステム開発までの受注を狙う

#### 受託開発の拡充

⇒「引き合い案件を断らない」をスローガンに拡充

既存顧客からの引き合いが拡大中

### 2. 海外

水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージ「HARPS」の販売強化

既存顧客からのリピートオーダー

### <第2の矢：新規サービスへの取り組み>

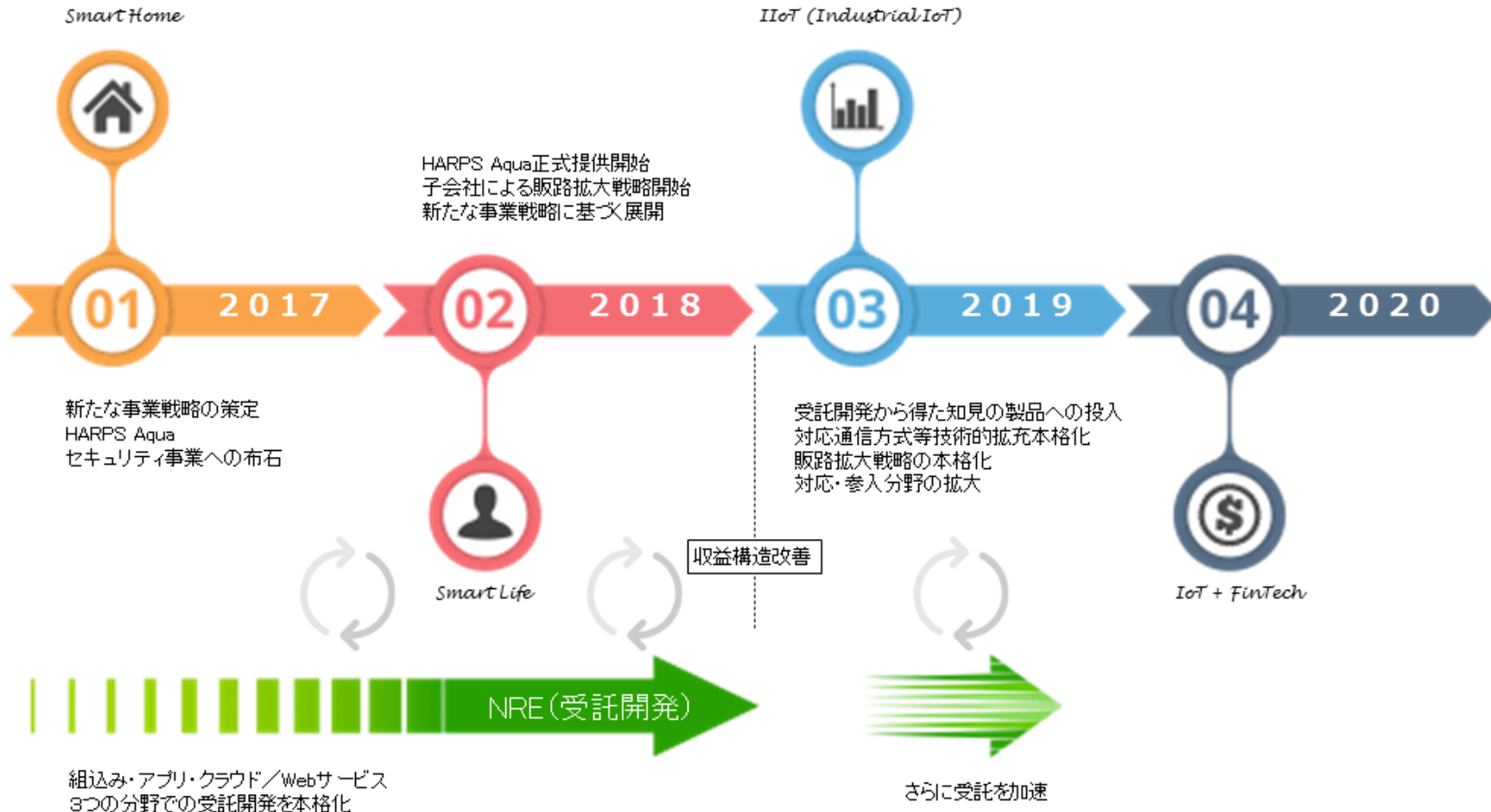
- ・ DAKOQ：ビーコンを用いたスマート打刻サービス  
⇒7月20日に販売開始、クライアントの引き合いもあり、受注強化
- ・ こそあどカメラ：コールセンターなどのスタッフがエンドユーザーからスマートフォンのビデオ通話で話を聞き、写真と手描きの指示でリアルタイムにサポートするサービス  
⇒国内・海外への販売にむけて開発中
- ・ BeaBridgeGateway：ビーコンが発信する情報を無線LAN経由でインターネットに送信するゲートウェイ  
⇒7月20日に販売開始、ビーコンとの併売を狙う  
子会社BEAMOとの協業で販路拡大を強化

### <第3の矢：研究開発>

- ・ groma（仮称）：屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション  
⇒18年4月に設置した研究開発室が主体となり、尖ったサービス・プロダクトを開発中

# 事業展開に係る中期的タイムライン

2017年11月9日発表の新事業ビジョンに掲げた施策を着実に実行することにより、既存のIoTソリューション事業の拡充、新たな技術の開発及び事業領域の拡大を図り、業績向上を目指す



- 1. 開発エンジニアの個性を尊重し、革新的なサービス・製品を送り出し続けます。**
- 2. 早期の黒字化、ひいては企業価値向上に向けて社員一同全力を尽くします。**

# 「新技術の開発等に関する当社の取り組みについて」

株式会社アプリックス  
常務取締役 根本 忍


**HARPS**  
The IoT Package for Water Treatment System




hubea®



こそあどカメラ™



IoTIZR™



BeaBridge Gateway(ビーブリッジゲートウェイ)



MyBeacon®



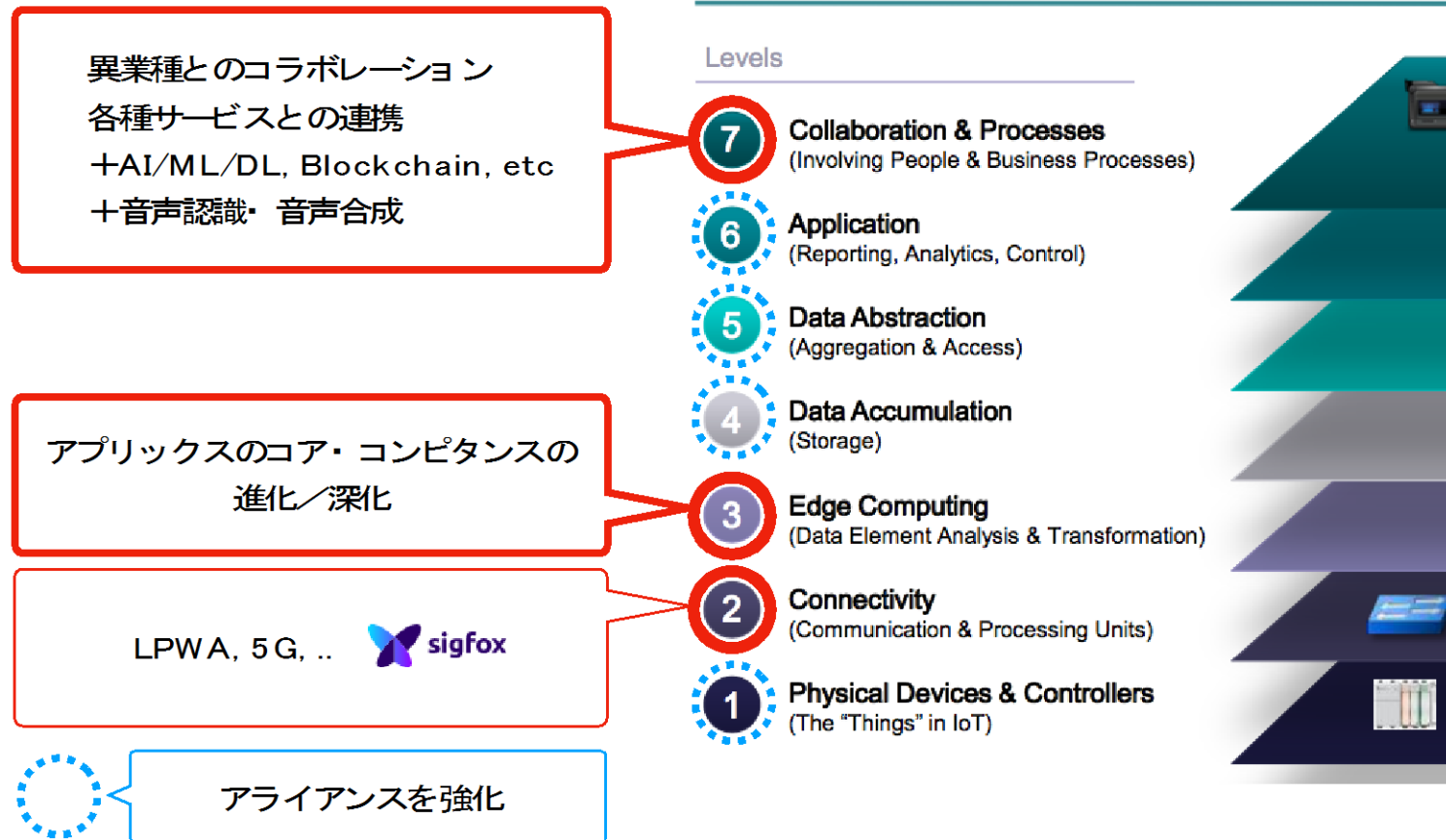
## IoT World Forum Reference Model

### Levels

- 7 **Collaboration & Processes**  
(Involving People & Business Processes)
- 6 **Application**  
(Reporting, Analytics, Control)
- 5 **Data Abstraction**  
(Aggregation & Access)
- 4 **Data Accumulation**  
(Storage)
- 3 **Edge Computing**  
(Data Element Analysis & Transformation)
- 2 **Connectivity**  
(Communication & Processing Units)
- 1 **Physical Devices & Controllers**  
(The "Things" in IoT)



## IoT World Forum Reference Model





人工知能学会、日本ロボット学会、日本音響学会、情報処理学会・・・



2018年4月24日発表

## 米国Guardian社製空気清浄機へのGoogleアシスタント対応を実施 Google Homeなどのスマートスピーカーで操作可能に

アプリックスは、米国Guardian Technologies LLC製の空気清浄機「GermGuardian CDAP4500BCA Wi-Fi Smart 4-in-1 True HEPA Air Purifier with UV Sanitizer and Odor Reduction（以下「CDAP4500BCA）」に対し、Googleアシスタント対応を行いました。この対応の結果、2018年4月から「CDAP4500BCA」は、Googleアシスタントを搭載した「Google Home」などのスマートスピーカーで音声操作できるようになりました。

「CDAP4500BCA」はアプリックスのIoTソリューションが採用された空気清浄機です。本体にアプリックス製IoTモジュールが組み込まれているほか、スマホアプリ「Guardian TE」及び専用のクラウドシステムをアプリックスが開発・提供しています。

今回のGoogleアシスタント対応では、アプリックスは以下の開発を行いました。

- ① アプリックスのクラウドシステムのGoogleアシスタント対応
- ② アプリックスのクラウドシステムとGoogleのクラウドシステムが連携するための開発
- ③ Googleアシスタント向けアプリ（Assistant app）「Guardian Technologies」の開発

2018年5月11日、2018年5月17日発表

### 「ナショナル・レストラン・アソシエーション・ショー 2018 (NRA Show 2018)」に初出展

### 「HARPS」と「KOSOADO CAMERA」を展示



アプリックスは、2018年5月19～22日に米国イリノイ州シカゴで開催された「ナショナル・レストラン・アソシエーション・ショー 2018（以下「NRA Show 2018」）」に初出展しました。

「NRA Show 2018」は43,000人以上のバイヤーが来場する、米国最大級のレストラン・食品サービス関連見本市です。

「NRA Show 2018」では、「HARPS」と、スマートフォンのビデオ通話で話を聞きながら、写真と手描きの指示でリアルタイムにサポートできるようにするサービス「KOSOADO CAMERA（こそあどカメラ）」の展示を行いました。

2018年3月28日、2018年5月31日発表

### 「MyBeaconシリーズ」の拡充

2018年4月1日に、持ち歩きに適した  
「MyBeacon ペンダント型」の後継機種  
「MB002 Ac-SR2」を発売しました。



(左) MyBeacon Pro  
近接域特化型  
MB004 At-DR2

(右) MyBeacon  
ペンダント型  
MB002 Ac-SR2



2018年6月1日に、電波が届く範囲を限定した  
「MyBeacon Pro 近接域特化型」の後継機種  
「MB004 At-DR2」を発売しました。

2018年5月31日発表

### 産官学共同の研究プロジェクト「WIDEプロジェクト」と ワーキンググループ「SDM」に参加

アプリックスは、産官学共同の研究プロジェクト「WIDEプロジェクト」（代表：江崎 浩<東京大学大学院情報理工学研究所創造情報学専攻 教授>）と「WIDEプロジェクト」のワーキンググループである「Software Defined Media (SDM)」に参加しました。

#### ■WIDEプロジェクト

1988年の発足以降、日本におけるインターネットの発展に大きく寄与してきた研究プロジェクトであり、広域にわたる大規模な分散コンピューティング環境を構築する技術の確立等を目的として活動し、全国の大学や研究機関、企業など100を超える団体が参加しています。

#### ■Software Defined Media (SDM)

オブジェクト志向のデジタルメディアや視聴空間サービスのソフトウェア制御などの研究を行っている「WIDEプロジェクト」のワーキンググループです。

アプリックスは、2017年11月9日に発表した新事業ビジョンにおいて新技術への取り組みを掲げておりますが、「WIDEプロジェクト」及び「SDM」に参加させていただくことで、新たな技術の開発や新技術を使った製品開発への取り組みがさらに加速すると考えております。

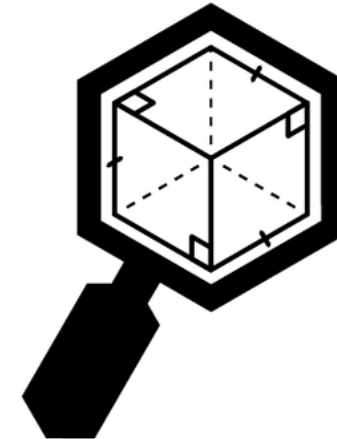
2018年6月11日発表

### 屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション 「groma（仮称）」発表

#### 第1弾「groma AprilTagソリューション for SDM」を Interop Tokyo 2018に参考出展

アプリックスは、屋内測位／位置情報システム市場向けソリューションの開発を開始したことを発表しました。また、本ソリューションを「groma（グローマ）」と仮称し、第1弾として、AR（Augmented Reality：仮想現実）マーカーを使った位置情報検知ソリューション「groma AprilTagソリューション for SDM」をiOS上に試験実装しました。

さらに「groma AprilTagソリューション for SDM」を、Interop Tokyo 2018のSoftware Defined Media（SDM）コンソーシアムブースで展示される立体音響再生システムに組み込む形で参考出展しました。



# groma

2018年6月19日発表

### 水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージ「HARPS」 スイスDigmesa社の流量センサーを新たにサポート

「HARPS」が標準でサポートするセンサーのラインナップに、スイスDigmesa AG（以下「ディグメサ社」）製の流量センサー2種が加わりました。両センサーは「HARPS」標準でサポートするため、「HARPS」ユーザーは、これらのセンサーをディグメサ社から購入して浄水器に設置するだけで、インターネットを経由したフィルターの使用状況や交換時期のモニタリングをすぐに開始できます。

ディグメサ社は、スイスで30年以上の歴史をもつ流量センサーのメーカーです。

アプリックスは、水に関するお客様の製品やサービスが、より簡単に、スピーディにIoT化できるよう、今後も「HARPS」がサポートするセンサーの種類と提供サービスを拡充していきます。



(上) ディグメサ社製流量センサー

2018年4月10日、2018年6月19日発表

### 「第3回 名古屋 機械要素技術展（M-Tech名古屋）」と 「第22回 機械要素技術展（M-Tech）」のジョプラックスブースに出展

### 共同開発した「ジョプラビーコン」試作品をはじめ、 アプリックスの「HARPS」を展示



アプリックスは、2018年4月11～13日にポートメッセなごやで開催された「名古屋機械要素技術展（M-Tech名古屋）」と2018年6月20～22日に東京ビッグサイトで開催された「機械要素技術展（M-Tech）」のジョプラックス株式会社のブースに出展しました。

ジョプラックスブースでは、アプリックスのモジュールが採用され、専用スマートフォンアプリの開発などをアプリックスが担当しているジョプラックス製浄水器IoT化製品「ジョプラビーコン」の試作品をはじめ、アプリックスの「HARPS」が展示されました。

(左) ジョプラビーコン

2018年6月21日発表

## Beaconのそばを通るだけで時刻を記録 新サービスのスマート打刻サービス「DAKOQ」を7月20日に発売



アプリックスは、新サービスとしてBeaconのそばを通るだけで打刻ができるスマート打刻サービス「DAKOQ（ダコク）」を新たに開発し、2018年7月20日に発売しました。

「DAKOQ」ではMyBeaconシリーズのBeaconと、スマートフォンアプリ「DAKOQ」、および「DAKOQ」クラウドをセットで提供し、人がBeaconに近づいた時刻を記録・管理するサービスを実現しています。

# ダコク<sup>TM</sup>

D A K O Q



2018年6月29日発表

## Beaconが発信する情報を無線LAN経由でインターネットに送信 「BeaBridge Gateway」を7月20日に発売

アプリックスは、新製品「BeaBridge Gateway（ビーブリッジ ゲートウェイ）」を2018年7月20日に、アプリックスのオンライン通販ショップ「mybeacon-store（マイビーコン・ストア）」で発売しました。

「BeaBridge Gateway」は、BeaconがBluetooth Low Energy経由で発信する情報を受信し、その情報を無線LAN経由でインターネットに発信するためのゲートウェイ（異なるネットワーク同士をつなげる機器）です。発信された情報はアプリックスのクラウドにシームレスに集められ、ユーザーはその情報をいつでもダウンロードして活用できます。



### アプリックス公式Facebookページの開設

6月にアプリックス公式Facebookページを開設いたしました。

主に製品リリース情報や最新トピックスなど、幅広く情報発信しております。

また、代表取締役の長橋を含めたマネジメントチームより、毎週定期的に事業に関連する情報やその他様々な情報を投稿しております。

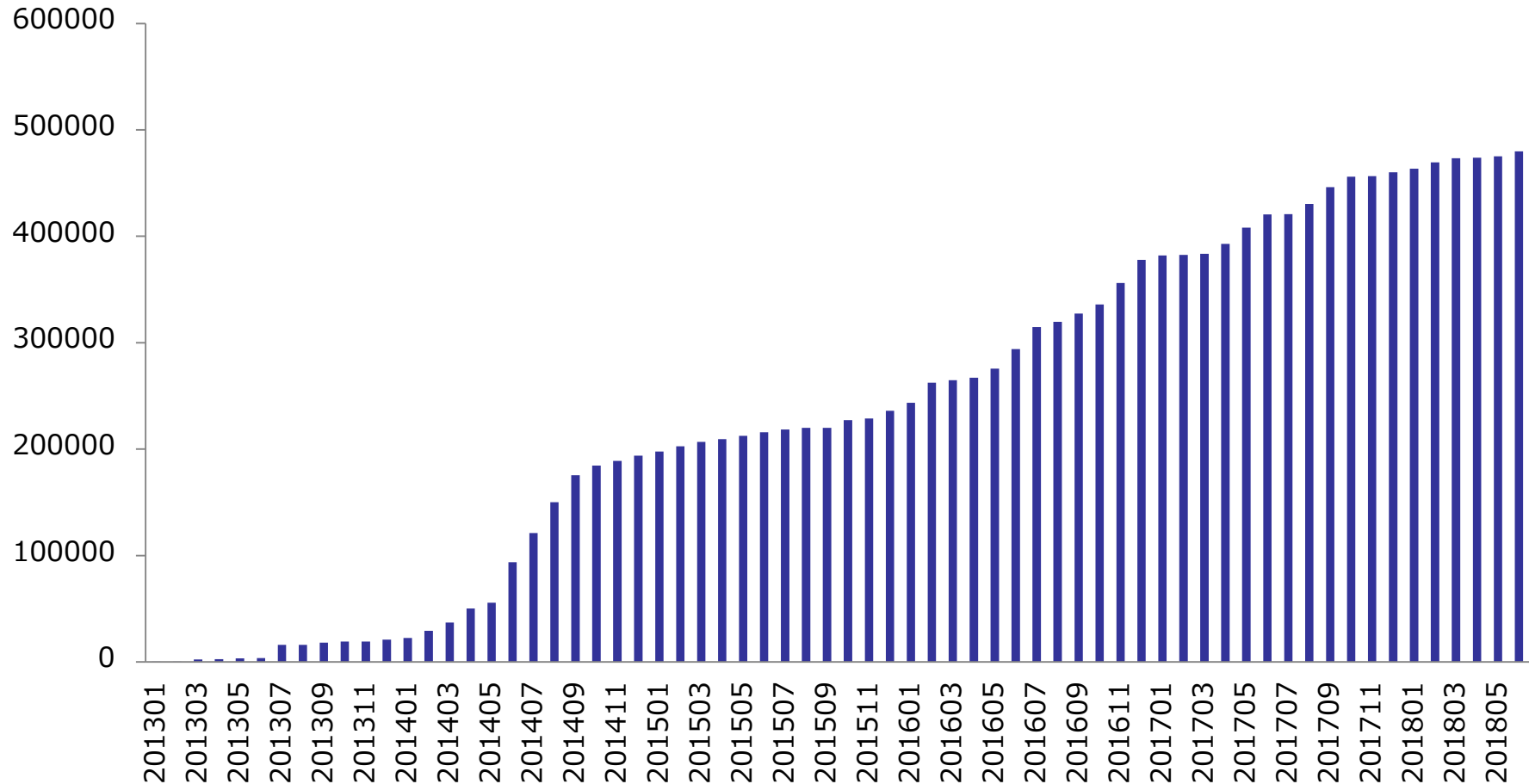
アプリックス公式Facebookページは <https://www.facebook.com/AplixCorporation.official/> をご覧ください。

# Bluetooth Low Energyモジュール出荷台数



1 8年7月末現在までのBluetooth Low Energyモジュール累計出荷台数は約48万台

(単位：台)



出所：会社資料

Bluetooth Low Energyモジュール、JMシリーズ、MyBeaconシリーズ、その他を合計

## 会社名

株式会社アプリックス  
[英文表記：Aplix Corporation]

## 本社所在地

〒160-0051  
東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号

## 設立年月日

1986年2月22日

## 資本金

1,864百万円 [2017年12月末現在]

## 売上高

557百万円（連結） [2017年12月期]

## 従業員数

33名（連結） [2017年12月末現在]

## 役員

代表取締役 兼 取締役社長	長橋 賢吾
常務取締役	根本 忍
取締役（非常勤）	石黒 邦宏
取締役（非常勤）	平松 庚三
常勤監査役	大西 完司
監査役	山田 奨
監査役	坂口 禎彦

執行役員	高木 健
執行役員	白川 貴裕
執行役員	山田 信重
執行役員	倉林 聡子

## 事業内容

テクノロジー事業

## グループ会社

Aplix Corporation of America  
株式会社BEAMO



株式会社アプリックス  
<http://www.aplix.co.jp/>

ご注意：本資料は、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。